

チームタイムアウト 電子申請システム 規定

2026年版

Electronic Team Time-Out Regulations



(公財) 日本ハンドボール協会

Japan Handball Association

※ 本書、太字朱書き箇所が、今回の追加修正等を行った内容となります

チームタイムアウト電子申請システム規定

チームはグリーンカードを使用する代わりに、電子機器のブザーボタンを押すことによって、直接チームタイムアウトを請求することができる。

ブザーボタンは公示時計に直接接続されており、ブザーボタンが押されると、競技時間は直ちに停止し、チームタイムアウトが自動的に開始される。チームタイムアウトが請求されたことをすべての関係者に知らせるために、請求は音で示される。

ブザーボタンを押した瞬間が、チームタイムアウト請求の時間として有効となる。

電子機器を用いた申請においても、チームタイムアウトの請求回数は競技規則に則った回数が適用され、自チームがボールを所持しているときにのみ、チームタイムアウトを請求することができる。

チームタイムアウトを請求する権限があるのは、チーム役員のみである。

チームタイムアウト電子申請システムの誤り、または誤って使用された場合、以下の内容を適用する。

1. 相手チームがボールを所持しているときに、チームタイムアウトを請求した場合、競技中か競技中断中かにかかわらず、以下の罰則と判定が適用される。
 - (a) ブザーボタンを押してチームタイムアウトを請求したチーム役員に対して、段階的罰則を適用する（ただし、本規定 9. を参照）。
 - (b) ボールを所持していたチームに、7 m スローを与える。
 - (c) 不正にチームタイムアウトを請求したチームは、チームタイムアウトの請求権を 1 つ失う（これにより当該チームのチームタイムアウトの請求合計数が、1 つ減ることになる）。

2. 相手チームがボールを所持、なおかつ明らかな得点チャンスをえているときに、チームタイムアウトを請求した場合、以下の罰則と判定が適用される。
 - (a) ブザーボタンを押してチームタイムアウトを請求したチーム役員に対して、競技規則 8:10b に基づき、報告書を伴う失格とする（ただし、本規定 9. を参照）。
 - (b) ボールを所持していたチームに、7 m スローを与える。

(c) 不正にチームタイムアウトを請求したチームは、チームタイムアウトの請求権を 1 つ失う（これにより当該チームのチームタイムアウトの請求合計数が、1 つ減ることになる）。

3. 本規定 1, 2, 6, 8 に記載されている状況が、競技終了前 30 秒間に生じた場合、チーム責任者は、7 m スローまたはボールの所持（フリースロー）のいずれかを選択する権利を有する。

チーム責任者によってボールの所持が選択された場合、競技を中断したときにボールのあった位置から、フリースローによって競技は再開される。

4. 自チームがボールの所持を失った直後にチームタイムアウトを請求し、それが意図的ではないことが明らかの場合。

(a) 不正にチームタイムアウトを請求したチームは、チームタイムアウトの請求権を 1 つ失う（これにより当該チームのチームタイムアウトの請求合計数が、1 つ減ることになる）。

(b) 中断の理由に相応しいスローで競技を再開する。

5. 以下のいずれかの状況で、自チームがボールを所持している間に、チームタイムアウトを請求した場合。

(a) 4 回目のチームタイムアウトを請求した。

(b) 試合の後半残り 5 分間に、2 回目のチームタイムアウトを請求した。

(c) 前半もしくは後半のいずれかで、それぞれの最大請求となる 2 回のチームタイムアウトをすでに請求しているにもかかわらず、3 回目のチームタイムアウトを請求した。

(d) 延長戦で、チームタイムアウトを請求した。

(e) 同じ攻撃中に、2 回目のチームタイムアウトを請求した。

その判断は、以下の内容を適用する。

競技中に、チームタイムアウトの請求がなされた場合。

(a) ブザーボタンを押してチームタイムアウトを請求したチーム役員に対して、段階的罰則を適用する（ただし、本規定 9. を参照）。

(b) 相手チームのフリースローで、競技を再開する。